

2024年 MMC 中小企業診断士
第2次試験合格対策 合格2帖—G21

合格記述復習帖

組織

答練単事例用

記述復習FC 組織5部×5

①神速記述復習用

模範解答 → 解答メモ → 解答

②無想転生記述復習用

設問・解説事例文 → 解答メモ → 解答

③凧記述復習用

設問・事例文 → 解答メモ → 解答

MMC

Master of management corporation

記述復習

合格答案の三要件

- ・ 分かりやすさ
- ・ 見栄え
- ・ 短時間記述（試験時間厳守）

⇒合格解答メモで神速記述

解答メモ(解答型+因果KM)

- ⇒因果KM（キーワード・マトリックス）
- ⇒解答型
- ⇒解答メモ（因果KM+解答型）で神速記述

合格解答の神速記述法

- ・ 分かりやすさ
- ・ 見栄え
- ・ 短時間記述（納期・試験時間厳守）

⇒MMC合格3ツールで神速記述

- ⇒合格因果KM（キーワードマトリックス）
- 合格設問FC（フローチャート）
- ⇒合格解答型
- ⇒合格解答メモ
- 合格記述復習帖FC（神速記述練習）

合格解答とは、下記の要件を満たした文章である。

- ① 分かりやすい基本的キーワードが用いられている。
- ② 見栄えのよい読みやすい型が文章にある。
- ③ 試験時間内（短時間）に書くことができる。

記述復習とは、合格解答を事例文・設問文の分析で導くのではなく、MMC合格3ツール（①合格解答型、②合格設問FC、③合格因果KM）のを使い、④合格記述FCで短時間に合格答案（模範解答）を書き上げる記述練習である。合格設問FCは、合格因果KM見出しをフローチャート化したものであり、両者は同じものである。

合格解答型・合格設問FC・合格因果KMで解答に悩む時間（分析時間）を減らし、合格記述FC練習で、字数調整力や見栄えある読みやすい合格解答の書上時間を神速化する。

事例文・設問毎に解答を分析し解答を導くのではなく、少数パターンの合格解答を短時間で書き上げれるようにしておく。多種多様な事例文に少数の短時間で書き上げられるようにした解答で対応し、どんな事例にも短時間で60点（つまり合格点）解答を安定して記述できるよう日々記述練習をする。

「段取り八分、仕事二分（解答記述準備8分、解答記述2分）」の考えで試験合格解答記述対策とする。

MMC 合格記述FC(フローチャート) 帰納的事例解法

合格4ツールの確認



設問題意の把握



②合格設問FC図置付



解答ポイント



解答型



因果KM



解答文章化

パワポ形式
文章定型化



解答文章化

樹目形式
文章字数調整力



記述速度神速化



合格解答記述

記述復習



実践記述



安定合格解答記述力

④合格解答型・②合格設問FC・③合格因果KM
④記述FCの確認(基礎講座Cs1で合格4ツール説明)
設問要約で④合格解答型から解答型を仮想定

②合格設問FC位置付け
→③合格因果KM果K(キーワード)仮想定
因果KM因K(キーワード)を仮想定
設問の縛りを確認(時制、○○以外、等)

④合格解答型から基本型を選択後、転用・流用・変形

①: ②合格設問FC位置付け・③合格因果KMで果Kの割振
②: 事例文・設問の根拠文確認(捏造防止 分析ではない)
③: 根拠文から因果KM因Kの抽出

①: 因果KM→解答型でパズル文章化
②: 因果関係(～のため○○)で採点者に、
分かりやすく読みやすくなっているかを確認。
③: ①～、②～、③～(投資案は～、理由は～)。
④: 主語・述語は、字数調整の文章バッファー。

①: 短時間字数調整力をつける。
②: 根拠文・修飾語・主語・述語で字数調整。

①: 100字10分目標
②: SWOT・戦略・オペレーション・情報等仮想し解答準備。
解答数を最大化。捨て間に時間を使わない。

②: 合格記述復習帖で繰り返し練習し神速記述

①: 達成目標は、合格点(60点)確保 or 20%順位確保。
事例の高得点解答を目標にしない。

②: 診断士合格解答を目標とし、学者向け解答は目指さない。

①: 神速記述復習(神速記述)
模範解答・解答型・因果KMで模範解答復元記述復習
文章定型化・文章字数調整

②: 無想転生記述復習(設問不惑記述)
設問・解説事例文・解答型・因果KMで模範解答記述復習
解答型・因果KM果K仮想

③: 風記述復習(事例文不惑記述)
事例文・設問・解答型・因果KMで模範解答記述復習
因果KM因K根拠見出し

①: 初見事例に対して、合格4ツールを使い、同じ合格解答

②: 解答の果キーワード(因果KM)は変わらない

③: 解答型は設問、因キーワード(因果KM)は事例文で確認
初見事例にいつでも合格点(60点)確保 or 20%順位確保

MMC合格記述FC(フローチャート) 帰納的事例解法



記述復習段階(神速記述・無想転生記述・凧記述)

神速記述

模範解答からMMC合格3ツール（合格解答型・合格設問FC・合格因果KM）を見出し合格記述FCで神速記述

模範解答を書き上げる記述復習の際、模範解答のみを使用する。解答で書かなければいけないキーワードや型を模範解答から見出す。この際、事例文の確認は、一切、不要である。（どうしても事例文の根拠文を確認したい場合は、解説で行うと良い）。模範解答だけで、キーワード（施策等）や型（主語、述語、No等）を想定する。

以上で模範解答が、どのような型やキーワード、主語・述語・No（見出し）・基本的キーワードなど見栄え的な要素を確保しているのかを確認する。

次に、分かりやすく読みやすい文章にするポイントは、文章の因果関係の有無となる。模範解答のキーワードに対する修飾語・根拠文（因果の因の部分）を引き出し、因果KMを模範解答のリバースエンジニアリング（逆分解）で再作成する。

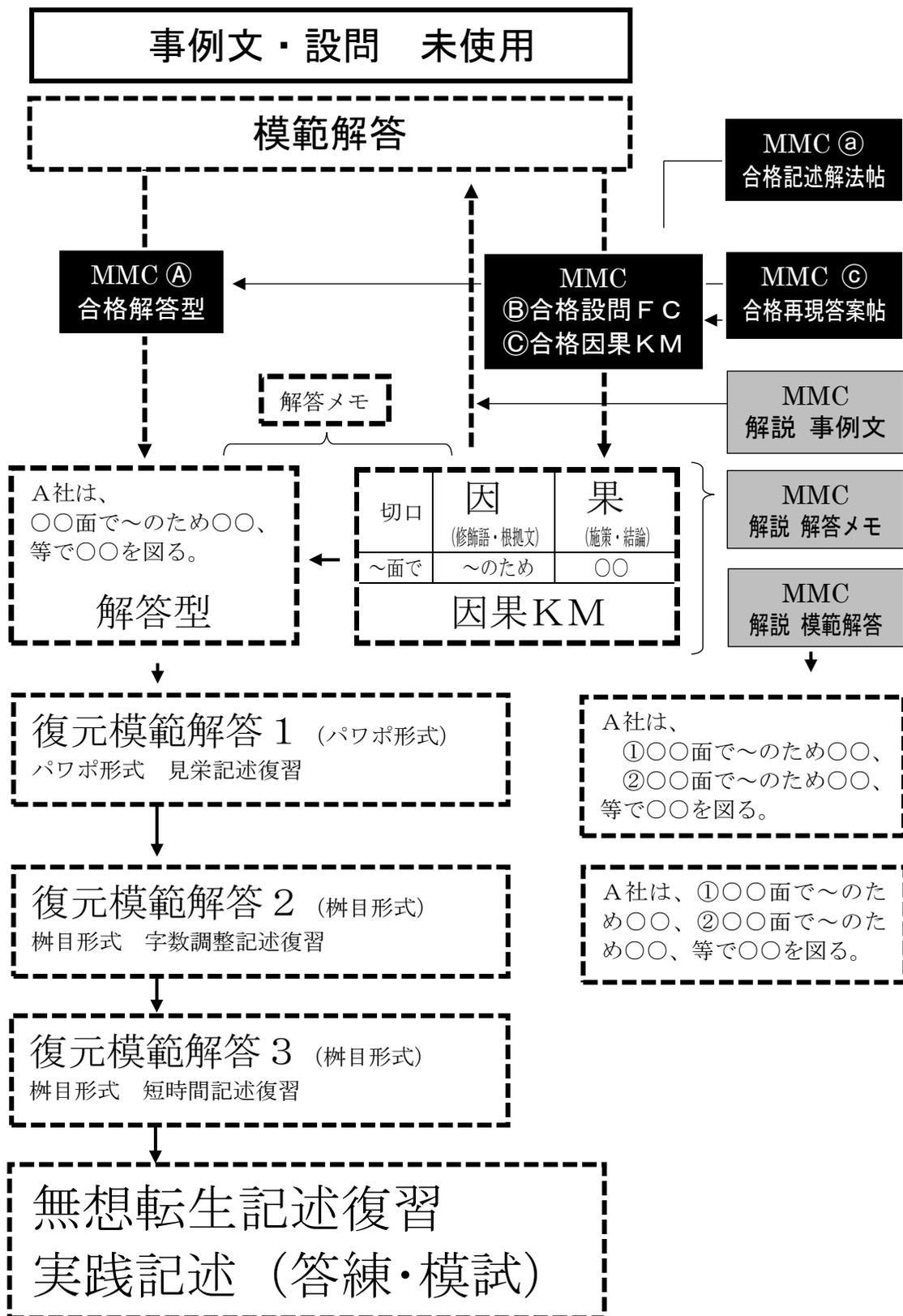
因果KM、解答型が出そろった段階で、パワーポイント形式の文章で書いてみる。取締役や重要客先に見てもらおうプレゼンテーション資料ぐらいの緊張感を持って、分かりやすく読みやすく見栄えのよい文章になっているかを確認する。

最後に、パワーポイント形式で書き上げた解答を樹目形式に記述する。大半が字数超過となるが、一旦、超過状態で書き上げ、減らさなければいけない字数を確認する。

減らすべき字数を把握した後、パワーポイント形式のものを見直し、字数を減らす。この際、主語・述語の省略やNo省略、事例引用文の大幅な縮小・略語化を行うことも必要である。字数調整ができるまで、数回、樹目形式で書き上げる。

模範解答を書けるようになるために知識復習するのではなく、はじめから模範解答を短時間で記述することが神速記述復習の目的である。言い換えると、模範解答が、合格解答型・合格設問FC・合格因果KMのどこを使用して書かれているかを確認し、模範解答から因果KMや解答型を引き出し、自身で再作成した因果KM・解答型で、再度、神速で模範解答を文章化する練習である。

MMC合格記述FC(フローチャート) 神速記述復習



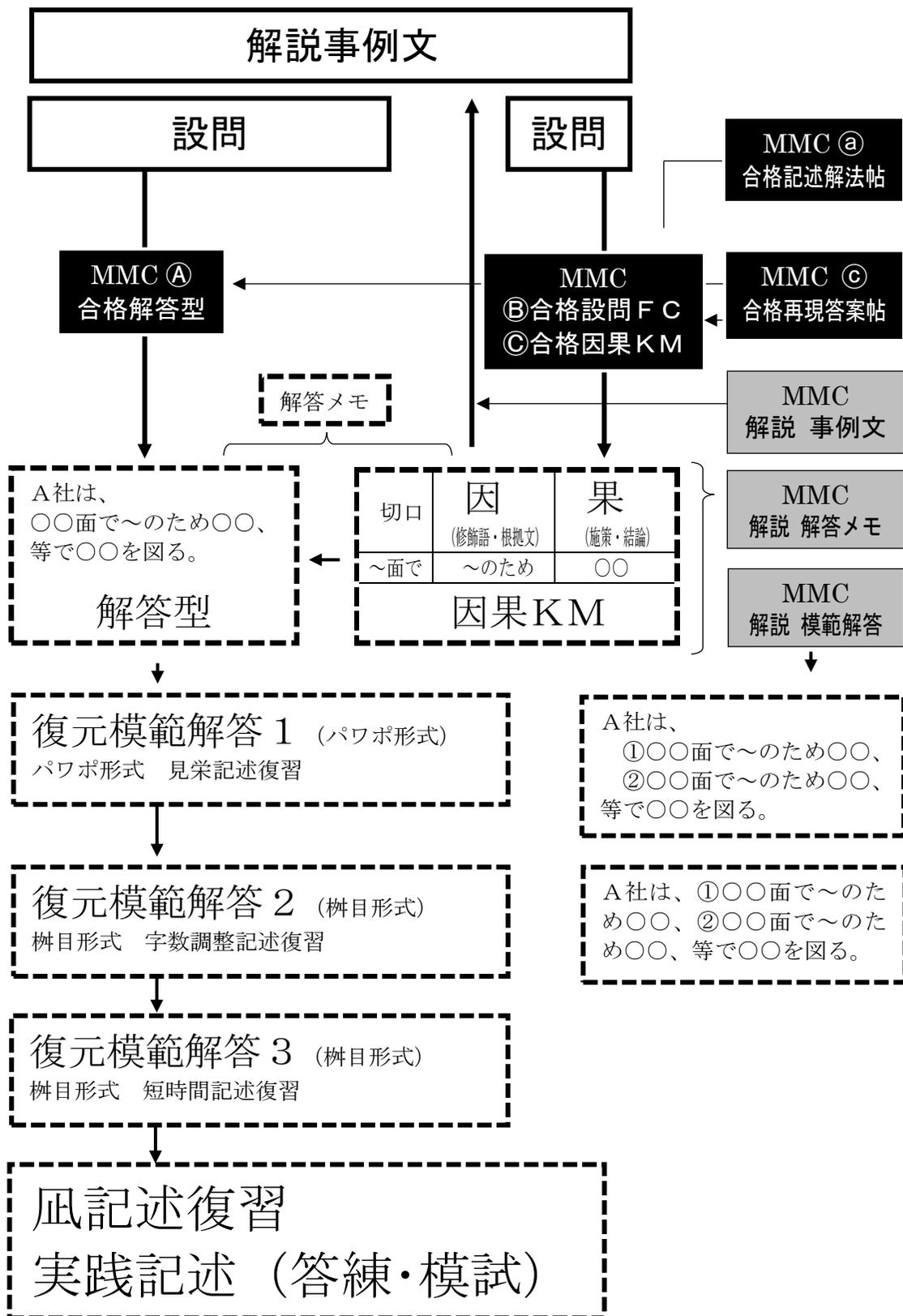
無想転生記述（設問に惑わされずいつもの合格解答を記述 設問不惑記述）

設問・解説記載事例文からMMC合格3ツール（合格解答型・合格設問FC・合格因果KM）を見出し合格記述FCで神速記述

無想転生記述は、神速記述復習を完了した事例について行う。

神速記述復習では、MMC合格3ツール（合格因果KM・合格設問FC・合格解答型）を模範解答から引き出して行っている。無想転生復習記述では、模範解答を見ずに（又は、ちょい見で）設問と解説に記載された事例文のみで、因果KM、解答型の作成を行う。

MMC合格記述FC(フローチャート) 無想転生記述復習



凧記述（事例文に惑わされずいつもの合格解答記述 事例文不惑記述）

事例文・設問からMMC合格3ツール（合格解答型・合格設問FC・合格因果KM）を見出し合格記述FCで神速記述

凧記述は、無想転生記述復習を完了した事例について行う。

無想転生記述復習では、MMC合格3ツール（合格解答型・合格設問FC・合格因果KM）を解説記載事例文から引き出して行っている。凧記述では、解説記載事例文を見ずに白紙の事例文のみで行っていく。

この際、事例文中に占める解説記載事例文（つまり解答の根拠文）がほんの一部ということに気が付く。言い換えれば、模範解答記述に必要な事例文は、ほんの一部であり、大半の事例文は模範解答を記述するためには、見る必要もない文章が羅列されていることに気が付く。模範解答記述に必要な事例文（根拠文）を、白紙事例文に見出す練習を行う。その際、事例文中の不要文に惑わされることなく、短時間で根拠文を見出すことが重要となる。

模範解答を神速記述できるようになった後でのみ、模範解答記述に必要な根拠文を短時間に事例文中見出せることができることが分かるはずである。この解法は、合格解答を念頭においた再現性の高いMMC受講生合格者再現答案ありきの帰納的事例解法とMMCでは考えている。

少数の定型的な合格解答を書く記述復習がない場合、事例文から思い付きの解答を必死で書こうとするが、高飛車・支離滅裂・意味不明・根拠レス（因果関係なし）・単答単語列挙・時間切れ書き殴り、等々の文章になることが多い。同時に、その解法は、事例文分析思考で解答を導こうとする一般的で記述時間未考慮・理想論至極的・難解な模範解答答案ありきの演繹的事例解法であり、本試験には試験時間を考慮していない点で決定的に不適切な解法となる。

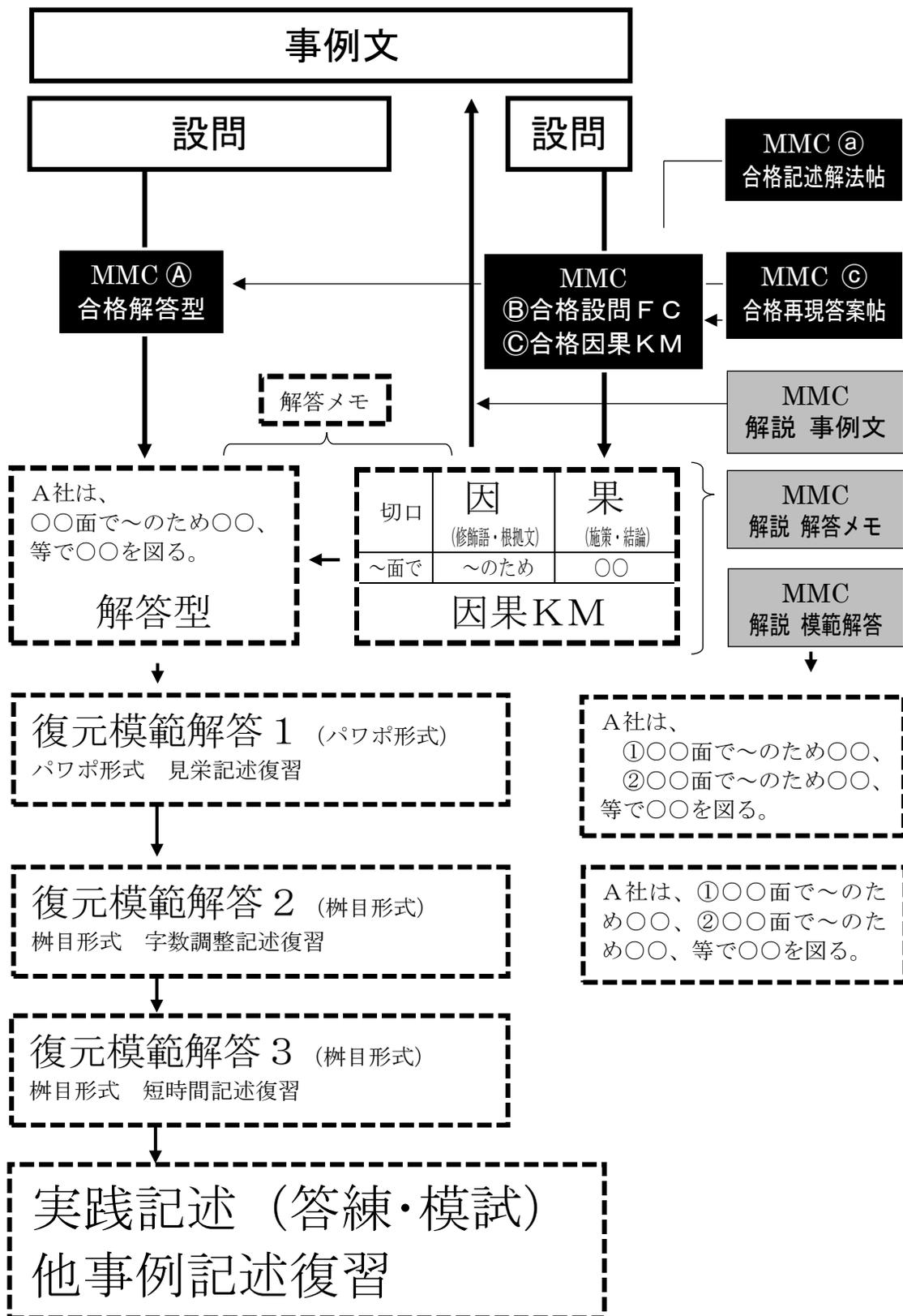
一連の記述復習は、始めのうちは特定1事例で行うことが望ましい。できれば、MMC答練事例や模擬試験事例がよい。教材作成の際、事例文と解答の因果関係の整合性がとられており、記述復習が行いやすくなっているためである。

本試験事例でも良いが、難解で理解不能な意味不明の捨て問的設問（誰も答えられない合否判定に影響のない設問や事例文）があり、こうした設問・解答は復習意味がない。こうした捨て問的設問や事例文・模範解答は、MMC答練事例では排除している。

1事例、しっかり記述復習を行った後、数事例について記述復習対象事例を増やしていくことが望ましい。多くのMMC講師の記述復習事例数は、直近2カ年本試験、第1・2回模試の4事例程度で留めていることが多い。

合格に必要な記述復習として、全ての答練事例について行うことは不要である。

MMC合格記述FC(フローチャート) 夙記述復習



実践記述（記述復習で養った合格答案記述力で初見事例の合格順位・合格点確保を確認）

記述復習を日々行い、身に着けた記述力で初見の答練・模試に取り掛かる。その際、達成目標は、「合格点（60点）安定確保 or 合格順位（20%）安定確保」であり、andではないことに注意する。学習好きの受験生に多いが、答練・模試の高得点解答は、決して目指してはならない。第二次試験高得点合格者が、合格後に協会から優先的に仕事を与えられるようなことは一切なく、合格に必要な以上の高得点取得には何の意味もなさない。また、高得点をとるための復習・研究も趣味の範囲で行うのであれば良いが、仕事・家族・社会生活・人間関係に支障がでるような域に足を踏み込んでしまうと、その泥沼から誰も救い出すことが出来なくなり、孤独な中小企業診断士試験合格研究者となるだけである。

合格解答は、いつも同じような分かりやすいキーワード、いつも同じような読みやすい型が用いられている。合格するためには、合格解答を試験時間内に書けるようにしておくことが必須である。同じような合格解答を書くために、事例文を都度、分析し合格解答を導くのでは、記述速度が遅く解答数が減り見栄えも悪くなる。結果、分析に頼って解答する受験生は、解答の事前段取りをしている受験生に対して解答数・見栄えで劣位となり、微差で点数が低くなる。そのため、事例文分析に頼らず、事前の合格解答の記述復習を事前準備として行い、事例文に左右されない安定した合格解答ができるように記述復習することが、無理のない合格対策として最適であるとMMCでは考えている。

記述復習意義

目指すべき達成目標は、中小企業診断士合格であり、学者・出題者・試験委員になることではない。中小企業診断士合格者は、素早く分かりやすく読みやすい解答を瞬答（瞬間即答）で書くことができる経営コンサルタントであり、ゆっくり研究している学者ではない。その解答は、最高・至高である必要はない。とにかく素早さが必要なのである。「分かりません、不勉強ですので教えてください、帰って調べます」では、話にならない。聞かれた瞬間、準備出来ている最適解を瞬答で相手に分かりやすく伝わるように答えることが重要である。内容も機敏で妥当性のある記述で労なく解答・合格している「できる合格者」の書いた解答を真似し、同じ記述速度でできるよう練習することが、合格への近道である。

中小企業診断士合格者になるためにすべきことは、瞬答記述力向上のための記述復習であり、部屋にこもって文献を読み漁るようなことは不要である。文献を読み漁る暇があれば、その時間を神速記述復習に充てる。

学者・出題者は、事例文作問・解答研究が本分である。永遠無限に最高・至高の理

想解答を追い求めることが使命であり、それはそれで正論である。しかし、誰からも瞬答を求められることはなく、これまでの他人の実績・歴史を安全な研究室でゆっくりまとめているに過ぎない。同じ速度では、刻々と変わる環境の中で動いている経営者は、決して満足しない。経営現場の第一線に晒されている中小企業経営者は、一年後に出てくるゆっくり研究された難解な経営アドバイスなど求めていないし聞く気もない。

学者ではなく、動きの速い経営者にアドバイスができる中小企業診断士になるためにやることは、瞬答記述力を磨き修得することであり、研究成果や難解知識を増やすことではない。今、この場、この試験場で、この現場で、自身の準備した最適解を瞬答することが必要なのである。中小企業診断士第二次試験の最適解は、出題者著書や有名理論にあるのではなく、再現性の高いMMC受講生合格再現答案の中にあるとMMCは信じている。

ここまで読み進めた受験生は、即時に記述復習・合格行動を開始しよう。

研究・勉強は今すぐやめ、毎日、少しでも合格記述復習をやろう。

決して走らず止まらず、しっかりと足取りで着実に一步一步前進し、歩いて行くように記述復習に取り掛かろう。

他の誰でもない貴方の中小企業診断士合格を確信しながら。

教材版には、以降に、合格解答型、合格設問FC、合格因果KM、合格FC、合格記述FCが続きます。